

報道関係者各位

2012年2月28日

プラスチック金型専用 2次元・3次元統合 CAD システムの最新版 TOPmold v6.12J を 3月2日に発売

コダマ コーポレーション株式会社(本社:神奈川県横浜市、代表取締役社長:小玉博幸)は、プラスチック金型設計支援システム TOPmold の最新バージョンである「TOPmold v6.12J」を3月2日(金)に発売するのでお知らせ致します。

TOPmold は、樹脂成形品の3次元 CAD データを活用して、射出成形、ブロー成形、ダイカストなどの金型を設計する金型設計支援システムです。成形品設計、キャビティ・コア設計、金型構造設計のすべてを3次元で行うことで、加工に必要なデータを正確かつ短時間で作成できます。さらに、部品図や部品表は3次元データから自動で作成されるため、ミスも無くなります。

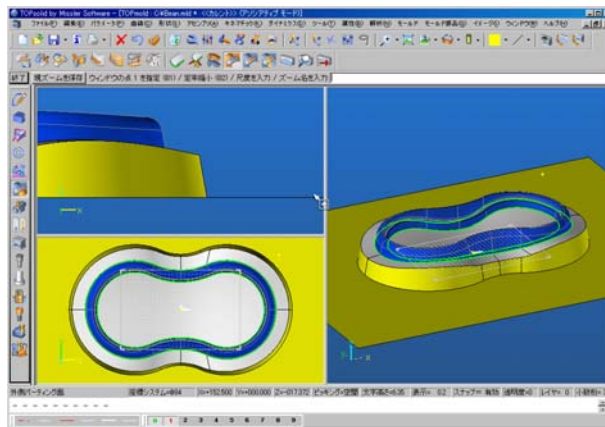
作成した3次元 CAD データからは2次元の図面や正確な部品表が自動で作成されます。

今回発売する最新バージョン TOPmold v6.12J の主な新機能を以下にご紹介します。

成形品設計とパーティング面設計

TOPmold v6.12J では、成形品の肉厚を解析する機能が追加されました。断面図を作成しなくてもマウスで位置を指定すれば瞬時に肉厚を確認できます。

パーティング面の設計では、製品外側に勾配を自動で作成できるようになりました。



勾配のついたパーティング面作成

モールド部品ライブラリの充実

モールド部品ライブラリにスライド調整プレート(SAP)、スライドコアユニット(MSCNB、MSCNG、MSCMB、MSCMG)を新たに追加しました。

廻り止め用ピン付きエジェクタピンやスパイラルバツフル板などは寸法バリエーションを増やし

ました。

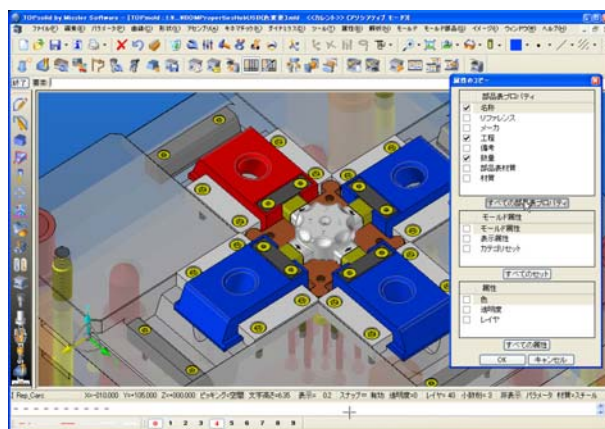
TOPmold では、これらの部品を配置すると同時にプレートに穴が作成され、TOPcam ではツールパスを自動で作成します。

部品表作成機能の強化

TOPmold は金型を 3 次元で設計すれば、部品表を自動で作成できます。

部品表に記載する情報を他の部品にコピーできるようになり、情報定義を短時間で簡単に行えるようになりました。

その他、表示項目を細かく設定できるように改良しました。



部品表に記載する情報を他の部品にコピー

表示切り替えの操作性を向上

成形品、入れ子、スライド部品、モールドベース、モールド部品、ランナー・ゲート、追加要素、固定側、可動側、全体の表示と非表示を切り替えるためのツールバーを装備しました。

不要な部品を一時的に非表示し、確認したい部品だけを表示させるのを素早く行えるようになりました。



対応している OS

Windows 7 Professional、Ultimate

Windows Vista Ultimate、Business、Enterprise

Windows XP Professional SP3

価格

1,155,000 円

年間のメンテナンス料金を含まない、ソフトウェアライセンス使用権のみの標準価格(税込)です。

お問合せ窓口

コダマコーポレーション株式会社 事業推進室 中條 貴之

TEL 045-949-1331 FAX 045-949-1515 E-mail bizinfo@kodamacorp.co.jp

URL <http://www.kodamacorp.co.jp/>

- * このプレスリリースに記載された会社名、商品名は、各社の商標、または登録商標です。
- * このプレスリリースに記載された情報は、発表日現在の情報であり、時間の経過または様々な後発事象によって変更される可能性がありますので、あらかじめご了承ください。